

確かな学力の育成 ～知識・技能の確実な習得とその活用を意識した授業づくり～

①本時の目標

学習指導要領に基づき、単元の目標を踏まえたうえで、本時の目標を設定する。
 ※単元指導計画に位置付けられた評価の観点との整合性を図った表現にする。

過程	学 習 活 動	教師の支援 指導上の留意点
つかむ・見通す	1 前時までの学習を振り返る。 2 本時の課題（めあて）を確認する。 ②学習課題（めあて） 本時の課題を解決することで、本時の目標が達成できるような表記にする。 ※授業の導入場面で、必ず 板書 し、ノートに書かせる。	・関心を引き出し、必要性を感じさせる導入の工夫 本時に必要な既習事項（習得したもの）の確認
さぐる	3 課題解決に向けて自力解決を行う。 一人学びの場 ★言語活動の充実 ・教科等の特質や発達段階に応じた適切な言語活動を意図的に設定する。 ・課題に対する自分の考えを持つことができるように個別の指導を行う。 既習事項（習得したもの）を活用	・学習訓練・規律の共通実践 ・発問構成の工夫 （主発問の工夫） （補助発問の準備） 徹底指導（ポイント） ◎基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るために、「何をどのように徹底するのか」を明確にする。 能動型学習（ポイント） ◎自ら考え、課題解決に主体的に取り組ませるための「具体的な手立て」を明確にする。
深める	4 共同解決を行う。 交流の場 【言語活動】（設定の意図）を位置付ける。 ★言語活動の充実 ・どんな力を付けようとするのか、ねらいを明確にする。 ・一人学びでの考えを練り上げるためにペアでの対話やグループ、一斉など意見交流の場を適切に設定する。 ・話し合い活動では、何のために話し合うのかを明確にする。	指導と評価の一体化 ③評価基準（B）の設定 児童生徒が、本時の目標を達成できたかの判断するものさしとなるよう「具体的な子どもの姿」で表す。 ・B基準に達しない児童への手立てを考えておく。 ・A基準の子どもの姿の例も明らかにしておくことで、評価の精度を高める。 ・個に応じた指導の工夫
まとめる	5 本時のまとめをする。 ④本時のまとめ 学習課題（めあて）に対する本時のまとめを児童生徒と行う。 ※授業の終末場面で、必ず 板書 し、ノートに書かせる。 ・適用・補充・発展的問題の活用 6 次時の学習について知る。	※まとめをする際には学習課題（めあて）を再度確認し、学習課題（めあて）と本時のまとめに整合性をもたせるようにする。 ・自己評価、相互評価の工夫 新しい基礎的な知識・技能の習得